

高校生の交通安全意識・行動と社会的関連要因に関する研究

柴若光昭、西岡伸紀、菊田文夫、中園伸二（東京大学教育学部健康教育学研究室）、太和田成夫（大東文化大学付属高校）

〔はじめに〕

筆者らは、初年度、第2年度に大学生及び高校生の交通安全意識について、文献研究及び調査研究を行った。予備調査の結果は、既報の通りである。これまでは、主として交通安全意識に焦点をあてて分析を進めて来た。しかしながら、中川ら¹⁾が示唆するように、思春期の場合、周囲の環境や人間関係が、車の運転、免許取得、交通事故、安全態度、安全意識等に極めて強い影響があることが予想される。そこで、今年度の調査においては、社会的要因の中で、特に人間関係を中心とした周囲の状況や環境と、高校生の交通安全意識・交通安全行動との関連について着目し、検討した。1985年12月に東京都内の高校4校、第2学年8クラスに対し、集合配布調査を実施した。今回報告するものは、そのうちの一部に関する単純集計の結果である。

〔研究方法および手続き〕

今回の分析対象は、上記4校のうち公立高校1校、2クラス、男子42名、女子44名とした。この学校は、学力レベルは中程度であり、一般的な高校であると考えられる。無免許運転等についての質問もあるので、回答の秘密保持には、十分留意した。

調査内容は次の通りである。Face Sheet（学校、学年、性別、年齢等）、友人関係、部活動、学業、学校生活、アルバイト、交通安全意識、家族関係、運転免許、不安全行動、事故経験、交通への曝露度、家庭の安全教育等47項目。

〔結果および考察〕

本来、この調査は、人間関係を中心とし

た社会的要因と交通安全意識・安全行動との関連をみることに主眼がある。従って、クロス集計による分析が必要であるが、今回の報告では、紙面等も限られており、その前段階である単純集計の結果のうち若干の興味ある結果を示すにとどめる。

運転免許の取得状況をみると、図1の通りである。高校2年生で四輪免許（普通免許）の取得者がいないのは当然であるが、原付免許取得者23人、29.9%、自動二輪免許取得者11人、15.3%は、意外に多いという印象である。しかしながら、四輪車の免許については、「取るつもりはない」6.9%に対し、「高校在学中又は卒業後に取りたい」が76.4%と圧倒的に多い。

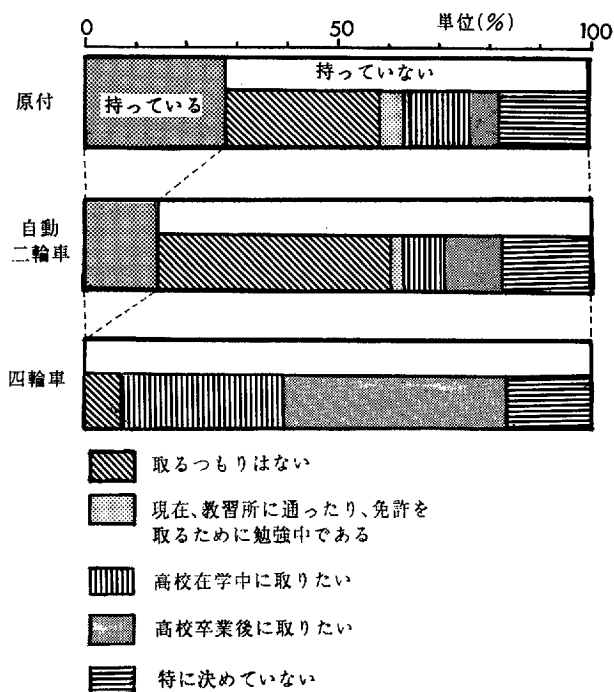


図1 現在の免許取得状況および将来の免許取得の意志

これに対し、高校2年生で既に取得可能である原付、自動二輪については、未取得者のうち原付で43.3%、自動二輪で52.9%が「取るつもりはない」としている。これらのことから、高校生の大部分は、いずれは普通免許を取得したいと思っているのに対して、バイク志向者(免許取得者も含む)は全体の $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{2}$ 程度で、四輪車の場合に比べて少ないことがわかる。

免許を取りたいと思ったことのある者の比率は、84.7%と極めて高い。その免許の種類は四輪免許が46.6%と多いが、原付、自動二輪等もみられる。これらの免許の取得について相談したことがある者の比率は意外に高く、母親には75.0%、父親には62.5%が相談している。これは友人に相談した比率55.7%よりも高い。先生に相談したのは僅か1人であったことも注目される。また、相談されて、友人の90.6%が賛成しているのは当然としても、最も反対の比率の

高い母親でさえ、58.0%は賛成しており、反対は18.0%に過ぎない。これらのことから、運転免許を取得することは、現代では社会において半ば常識化しているといえるであろう。

交通事故の経験については、図3~図6からわかるように、約半数が身近に経験している。本人の交通事故率が高いのは、軽いものまで含めるようなきき方をしているためである。

今回の単純集計から推測されるのは、普通免許を取得することは親も子も当然と思っているし、原付、二輪免許についても、取得に関心があるのは半分に満たないが、これに対する周囲の特別な反対はみられないということである。

文献

- 1)中川信平「自動車等運転高校生のモノグラフ」愛知県科学教育センター研究紀要、第44集、1970。

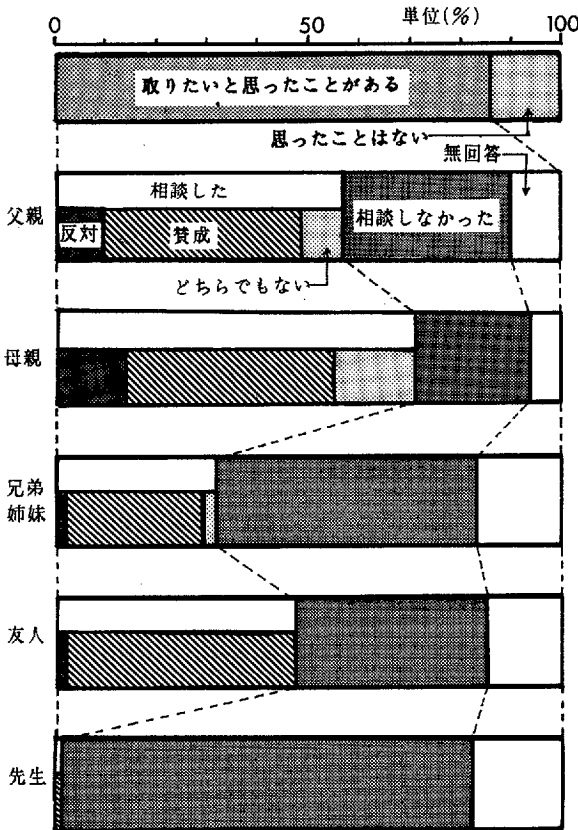


図2 免許取得に関する他人との相談の状況

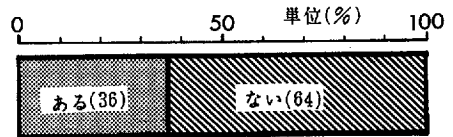


図3 本人の交通事故の経験

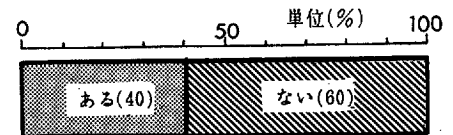


図4 家族の交通事故の経験

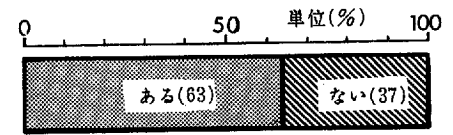


図5 友人の交通事故の経験

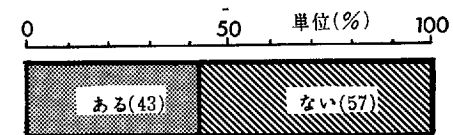
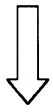
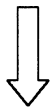


図6 交通事故の目撃の経験



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔はじめに〕

筆者らは、初年度、第2年度に大学生及び高校生の交通安全意識について、文献研究及び調査研究を行った。予備調査の結果は、既報の通りである。これまでは、主として交通安全意識に焦点をあてて分析を進めて来た。しかしながら、中川らが示唆するように、思春期の場合、周囲の環境や人間関係が、車の運転、免許取得、交通事故、安全態度、安全意識等に極めて強い影響があることが予想される。そこで、今年度の調査においては、社会的要因の中で、特に人間関係を中心とした周囲の状況や環境と、高校生の交通安全意識・交通安全行動との関連について着目し、検討した。1985年12月に東京都内の高校4校、第2学年8クラスに対し、集合配布調査を実施した。今回報告するものは、そのうちの一部に関する単純集計の結果である。